

アストラゼネカ 2001年上半期業績発表

【7月26日AstraZeneca PLC英文リリース 日本語訳】

「 NexiumTM symbol 228 ¥f "Symbol" ¥s 13TM }、米国での上市成功、CrestorTM symbol 228 ¥f "Symbol" ¥s 13TM }は アストラゼネカ 「 単独 」 で 」

フィナンシャルハイライト(例外的損益項目控除前)

グループ (継続事業*)	上半期 2001 \$m	上半期 2000* \$m	恒常為替 レート %
売上高	8,090	7,863	+8
営業利益	2,051	2,046	+4
税引前利益	2,129	2,099	+5
1株当たり利益 グループ	\$0.87	\$0.84	+7
グループ(法定会計 FRS3)	\$0.84	\$0.87	

*前期から農業事業を除く。法定会計 FRS3 EPSは例外

伸び率: 恒常為替レート(CER)

- NexiumTM は 米国のPPI市場で新規処方箋枚数のシェア10.7%を獲得。PrilosecTMを含めたシェアは、米国では、NexiumTMの発売後、PPI新規処方箋枚数は3ポイント以上上昇。
- IressaTM は 肺がんの治験で患者登録を完了。最初の申請は年末を目指して予定通り準備中。
- CrestorTM 米国とヨーロッパで、6月に新薬承認申請を行った。

トム・マクロープ CEOは、「NexiumTMとSymbicortTMの上市が成功し、強力なパイプラインは好調に前進しました。これは、私たちのポートフォリオの転換には幸先の良いスタートとなり、今後の成長基盤の確立につながるでしょう。CrestorTMは『自社で』という決断により、株主の皆さんに最高の価値を享受してもらえると確信しています」と述べました。

AstraZeneca PLC

2001年第2四半期の業績

ファイナンシャルハイライト(例外的損益項目控除前)

グループ (継続事業*)	第2四半期 2001 \$m	第2四半期 2000* \$m	恒常為替 レート %
売上高	4,099	3,971	+8
営業利益	996	1,070	-4
税引前利益	1,019	1,082	-2
1株当たり利益 グループ	\$0.42	\$0.43	+2
グループ(法定会計 FRS3)	\$0.40	\$0.46	

*前期から農業事業を除く。法定会計 FRS3 EPSは例外

伸率 恒常為替レート(CER)

- Symbicort™ ドイツと英国で発売。
- Zomig™ 日本で承認取得

2001年7月26日、ロンドン

Media Enquiries:	Steve Brown/Anna Isaacs (London) Staffan Ternby (Södertälje) Rachel Bloom (Wilmington)	(020) 7304 5033/5034 (8) 553 26107 (302) 886 7858
Analyst/Investor Enquiries:	Michael Olsson/Mina Blair-Robinson (London) Staffan Ternby (Södertälje) Ed Seage (Wilmington) Jörgen Winroth (Wayne)	(020) 7304 5087/5084 (8) 553 26107 (302) 886 4065 (609) 896 4148

Photographs of the AstraZeneca half year results conference are available from newscast at hyperlink "<http://www.newscast.co.uk>" www.newscast.co.uk from 2 pm (UK time) today.

ビジネスハイライト 例外を除いて、伸び率 恒常為替レート(CER)

上半期の売上高は8%増、営業利益は4%増でした。USドル高により、売上高と営業利益はそれぞれ、5%、4%のマイナス影響を受けました。一株当たり利益(例外的損益項目控除前)は7%増の0.87ドルでした。取締役会は、0.23ドル(16.1ペンス、2.44スウェーデンクローネ)の第1回中間配当を10月5日に支払うことを推奨しました。

第2四半期の売上高は8%増、営業利益は4%減で、四半期ベースの動向予測に基づく前回のガイダンスに沿うものでした。為替により売上高では5%、営業利益では3%のマイナスの影響を受けました。一株当たり利益(例外的損益項目控除前)は恒常為替レートで2%増の0.42ドルでした。

第2四半期におけるGI(消化器)ブランドの売上高は、7%増で、Prilosec™/Losec™は3%増でした。米国では3月19日の上市以来 Nexium™は非常に好調であり、7月の第2週には米国PPI市場の新規処方シェアの10.7%を獲得しました。Nexium™は今や当該ラスの新規処方市場で、発売後7週でrabeprazoleとpantoprazoleを追い抜き第3位となっています。ヨーロッパでの発売も好調に前進を続けています。

GI以外での第2四半期の売上高は、CNS:中枢神経系(32%増)呼吸器(14%増)オンコロジー(12%増)領域の製品群で、高い伸びが報告されました。

Crestor™は米国とヨーロッパで6月に新薬承認申請を行いました。これは、当社の新製品パイプラインの前進において重要なマイルストーンになりました。さらに、血栓症治療の分野では、最近、商標が発表された経口トロンボインヒビター Exanta™に対する関心が高まっています。Iressa™は、非小細胞肺がんの治療について枢軸となる全ての治験で患者のリクルートを完了しており、米国では最初の適応(難治性患者の単剤療法)での申請を年末に行うことを目指しています。COPD(慢性閉塞性肺疾患)治療における第III相臨床試験の結果から、Viozan™は、有効性の持続に関して目標基準を満たすことができず、開発を中止し、当社のポートフォリオ中他の優先すべきプロジェクトにリソースを再配分しました。

Crestor™が有する機会は、非常にエキサイティングで、プライオリティーが高く、この製品を私たち自身でマーケティングを行い、そのポテンシャルをフルに実現することにリソースを集中します。本製品が有する特性に対する自信および当社の営業・マーケティング力の増強により、コ・プロモーションの選択肢を選ばず、自社で営業活動を行うことを決めました。いくつかの大手企業より良い提案がありましたが、これらは、短期的なコストをいくぶん吸収する助けになるものではありませんでしたが、より長期的にベストな価値の創造を与えてくれるものではありませんでした。一方、戦術上の明確なアドバンテージがある選択された国では、コ・マーケティングあるいはコ・プロモーションの取り決めをそれぞれの国のレベルで結ぶ可能性はあります。

報告された上半期の業績は、今後の成長への投資を継続しながら、売上高の伸び率は一桁台の半ばとし、一株当たりの利益の伸び率はこれを少し上回るものとする(恒常為替レート)という今年度末の達成目標に合致しています。

注意: : 当社の利益やビジネスの見通しへの期待に関する上記の予測的な記述はリスクや不確定要素をとまっており、実際の結果はこれらと大きく異なる可能性があります。たとえば、米国におけるオメプラゾールの後発品の発売時期、新製品の承認取得ならびに上市の成否(とくに、Nexium®とCrestor™)、既存製品の継続的成長、コストや経費の増加、グループの現金収支に対する実質的な利息収入の額、為替レートの変動、税率の更なる改善、というようなリスクや不確定要素です。これらやその他のリスクや不確定要素については、2000年アニュアルレポートForm20-Fを含む証券取委員会への有価証券報告書をご覧ください。

売上

第2四半期、伸び率は恒常為替レート (CER).

消化器

	第2四半期		CER %	半期		CER %
	2001	2000		2001	2000	
Losec™/Prilosec™	1,371	1,379	+3	2,866	2,967	0
Nexium™	46	-	n/m	127	-	n/m
Total	1,426	1,390	+7	3,014	2,989	+4

- Nexium™ は、3月19日に上市された米国を含め、現在までに20カ国で上市されました。7月第2週には米国PPI市場の新規処方におけるNexium™のシェアは10.7%でした。発売後17週で、ウィークリーベースの新規処方数でPPI製品の中で第3位となっています。上半期の米国での売上高は、8,000万ドルで、これは、3月後半の上市より前の第4半期の売上高300万ドルと第2四半期の売上高700万ドルの合計です。
- 米国以外のNexium™の売上高は、引き続き好調で、第1四半期と比べて61%増の2,900万ドルでした。マーケットシェアは今や、ドイツ、ルウエー、フィンランドでは10%を超えています。米国以外の市場でNexium™はPPI市場の6%を占め、rabeprazoleを追い抜いています。
- 米国における第2四半期のPrilosec™の売上高は維持されました。予想どおり、PPI市場のPrilosec™のシェアは縮小しましたが、PPI市場の新規処方ではアストラゼネカのシェアはNexium™の発売以来、シェアポイントで3ポイント以上伸びています。
- Losec™の売上高は、英国、フランス、イタリアで好調な伸びを示し、4%増でした。日本では長期維持療法への適応追加と10mg錠の発売により第2四半期の売上高は倍になりました。

循環器

	第2四半期		CER %	半期		CER %
	2001	2000		2001	2000	
Zestril™	350	385	-6	644	661	0
Atacand™	113	68	+73	196	124	+67
Seloken™/Toprol-XL™	199	155	+32	350	261	+39
Plendil™	106	118	-4	212	233	-3
Total	1,000	990	+6	1,835	1,784	+8

- 予想通り、第2四半期のZestril™の売上高は減少しました。これは米国における昨年同時期の記録的な(流通における)出荷による売上増との分の悪い比較およびトマネジドゥアにおける業績リポートの増加を反映しています。米国におけるZestril™の処方量は6%増、処方量全体でのマーケットシェアはトップを維持し、ACE阻害剤市場のおよそ24%を保持しています。
- Atacand™および利尿剤との配合製品Atacand™ Plus/Atacand™ HCTはすべての主な市場で高い成長を続けています。この成長はARBクラス全体の成長をはるかに超えています。
- Seloken™/Toprol-XL™の売上高は米国市場におけるToprol-XL™の高い伸びを反映しています(第2四半期は52%増、上半期は73%増)。Toprol-XL™の処方量は上半期0%上昇しました。

呼吸器

	第2四半期		CER %	半期		CER %
	2001	2000		2001	2000	
Pulmicort™	209	179	+24	409	353	+23
Accolate™	46	59	-20	95	114	-15
Rhinocort™	74	73	+4	130	114	+18
Oxis™	33	29	+24	65	56	+27
Symbicort™	11	-	n/m	14	-	n/m
Total	413	384	+14	794	729	+15

- Pulmicort™ Respules™ の米国における抜群マーケット・アクセプタンスが主な要因となり、第2四半期のPulmicort™ フランチャイズの伸びは24%増となりました。ヨーロッパでのPulmicort™ の第2四半期の売上高は3%増加しました。
- Rhinocort™ Aquaは引き続き、米国における鼻炎フランチャイズの高成長の原動力となっており、上半期の売上高は28%増でした。水溶性の経鼻ステロイドの新規処方でのRhinocort™ Aquaのマーケットシェアは、米国において昨年と比較して5ポイント増の12.1%です。
- Symbicort™ はヨーロッパですばらしいスタートを切りました。昨年8月にスウェーデンで発売された際の市場浸透率は配合剤トップ製品の発売時のそれに匹敵していました。ドイツでは4月に発売されから同様のパターンが見られています。英国では6月に発売され、年末までにはEUの多くの国で発売される予定です。

オンコロジー

	第2四半期		CER %	半期		CER %
	2001	2000		2001	2000	
Casodex™	129	105	+32	244	220	+18
Arimidex™	49	45	+16	92	82	+19
Nolvadex™	147	136	+12	286	275	+7
Zoladex™	184	197	0	344	364	+2
Total	517	491	+12	981	956	+9

- 上半期のCasodex™ の売上高は、ヨーロッパ(40%増)および日本(1%増)での著しい成長により増加しました。米国では、Casodex™ は抗アンドロゲン剤で75%のマーケットシェアを獲得しつつあります。昨年の卸の動向が作用して売上高は11%減少したものの、処方量全体はほとんど変わりませんでした。
- Casodex™ の早期前立腺癌試験の結果が今年の春、主要な学会で発表されました。総数8,000名を超える患者で行ったいくつかの試験をまとめた分析によると、治療背景にかかわらず、Casodex™ は疾患の進行を42%減少させることを示しています。英国での申請は3月に行われ、米国での申請は年内を予定しています。
- Arimidex™ は競合の激しいアロマターゼ阻害剤市場でトップを維持しています。上半期の売上高の高い伸びは、日本での上市後の早い浸透とヨーロッパ(19%増)によりもたらされました。処方量が16%増加したにもかかわらず米国での売上高はやや減少しました。昨年同時期の在庫増が正確な比較を妨げる原因となっています。

CNS (中枢神経系)

	第2四半期		CER %	半期		CER %
	2001	2000		2001	2000	
Seroquel™	168	122	+40	357	204	+77
Zomig™	88	67	+35	154	132	+21
Total	257	199	+32	514	354	+48

- 米国での Seroquel™ の上半期の売上高は、処方量の伸びと合わせて61%の伸びを示しました。第2四半期の成長の鈍化(3%増)は、第1四半期の伸び率17%の後を受けた在庫調整が反映されています。Seroquel™ のマーケットシェアの伸びは続き、6月の新規処方マーケットシェア14.2%になりました。
- Seroquel™ の米国以外での上半期の売上高は、ヨーロッパでの継続的な成長と日本における年初の発売以来の速やかな市場浸透により、3倍増以上となり、5,600万ドルでした。
- Zomig™ Rapimelt™ は引き続き Zomig™ の成長の原動力となっています。ヨーロッパの上半期の売上高は34%増でした。Zomig™ は今やフランス、ドイツ、スペインでは最も多く処方されているトリプタン製剤です。米国での上半期の売上高は15%増でした。これは処方量の伸び率8%をやや上回っています。これは、Zomig™ 錠の在庫増ならびに4月に発売された the Zomig-ZMT™ の発売向け在庫の売上とがいくぶん反映されています。
- Zomig™ は日本で6月20日に承認を取得し、9月に発売を予定しています。

疼痛、感染症 他 の 製品

	第2四半期		CER %	半期		CER %
	2001	2000		2001	2000	
Merrem™	57	42	+46	106	78	+45
Diprivan™	108	120	-5	215	284	-19
Xylocaine™	56	63	-3	103	117	-5
Marcaïne™	22	24	0	41	45	-2
Total	378	416	-1	742	846	-6

- Merrem™ の上半期45%の伸びは、昨年4月のマーケティング再開後の米国での堅調な伸びと、ヨーロッパでの30%の伸びが反映されています。
- 第2四半期の Diprivan™ の売上高は、米国、英国、ドイツにおけるジェネリックとの競合の影響が反映されており、フランスと日本での好調な伸びが部分的に相殺されてしまいました。

地域別売上高

	第2四半期		CER %	半期		CER %
	2001	2000		2001	2000	
USA	2,120	1,989	+7	4,259	4,010	+6
Europe	1,358	1,340	+10	2,649	2,668	+9
Japan	211	218	+12	389	374	+18
RoW	410	424	+8	793	811	+6

- 米国では、Nexium™ の強力な発売に加え、Seroquel™、Toprol-XL™、Pulmicort™ および

Atacand™ の 好調な 伸び が 上半期の 業績を押し上げました。

- フランス、ドイツおよびイタリアでの 業績の 高い 伸び が 上半期の ヨーロッパ全体に 9%の 伸び をもたらしました。主に Nexium™、Atacand™、Casodex™ および Seroquel™ が この 業績に 貢献した 製品 です。
- 日本では、 Losec™ (日本での 製品 名 オメプラール) および Casodex™ (同 カリデックス) の 伸び が、 Accolate™ (同 :アコレート)、 Arimidex™ (同 :アリミデックス) および Seroquel™ (同 セロクエル、日本での 発売は 藤沢薬品工業株式会社) の 発売と合わせて、上半期の 業績を押し上げました。

営業利益

例外的損益項目控除前グループの上半期の営業利益は、4%増の20億5,100万ドルでした。第2四半期は4%減の9億9,600万ドルでした。

営業利益率は2000年上半期の26.0%から25.4%へ減少しました。これは新製品発売費用とR&D費用の毎期の均等的な負担の結果ですが、一部はノンコア(中核でない)製品の売却益により相殺されました。第2四半期については、営業利益率は2000年同期の高い利益率と比較して2.6%減でした。これは主に、営業・マーケティング関連への投資およびR&D費用の期間配分によるものです。通年では、おおむね2000年と同様の利益率を達成すると予測されます。

上半期は4億5,000万ドルのシナジー効果がありました。これは、通年では9億ドルに相当します。また、例外的費用としてさらに8,100万ドルを上半期に計上し、現在までの総計は12億6,700万ドルとなりました。

ドル高により上半期の売上高で5%、営業利益で4%のマイナス影響を受けました。下半期を通して為替レートに変動がなければ、恒常為替レートの業績結果と比較して、当社は引き続き営業活動から一株当たり5セントのマイナス影響を受ける見込みになります。

利息

上半期のグループの受取利息は純額800万ドルで、第2四半期の利息収入の減少(300万ドル)は、米国における利率低下が主な原因です。

税金

例外的損益項目を除く上半期の実効税率は、27.5%でした。一方、2000年上半期は継続事業分としては28.9%でした。

キャッシュフロー

上半期の営業活動によるキャッシュフローの増加は例外的損益項目控除前で22億ドルでした。2000年の最終配当金(8億ドル)を支払い、設備投資に6億ドル、例外的損益項目に2億ドル、税金の支払いに5億ドルおよび自社株の買い戻しに3億ドルを支出したことにより、営業取引前キャッシュフローは純額億ドルの減少となりました。

2001年6月30日現在、グループの正味キャッシュファン ドは33億ドルでした。

配当

第1回中間配当は0.23ドル(16.1ペンス、2.44スウェーデンクローネ)は2001年8月24日現在登録されている株主の皆さんに対して、2001年10月5日に支払われる予定です。

株の買い戻しプログラム

第2四半期に、普通株式430万株(額面0.25ドル)が買い戻され消却されました。2001年の総計は820万株、買入金額は3億7,400万ドルとなりました。これは、アストラゼネカの発行済み総株式の0.47%に相当します。

買い戻し消却された自社株の総数は、1999年12月に本プログラムがスタートしてから今や、2,190万ドルで、累計9億1,000万ドルになりました。流通株式数は(2001年6月30日現在)17億6,000万です。

2001年下半期イベントカレンダー

9月	Zomig™ 日本で発売
10月24日	9か月および第3四半期業績
12月3日	アニュアルビジネスレビューミーティング(ロンドン)
12月5日	アニュアルビジネスレビューミーティング(ニューヨーク)
12月	Iressa™ 新薬承認申請

開発パイプラインアップデート

開発ポートフォリオのアップデートが本日発行されます。アストラゼネカのウェブサイトから入手可能です。(www.astrazeneca.com)

トム・マキロップ
最高経営責任者